

# 神祭の芸能

高知県立大学 公開講座



## 俄・踊り・神楽

高知県でひろく氏神の祭りをいう「神祭」<sup>じんさい</sup>は土佐特有のいい方のようにです。

多くの地域社会が経済至上主義や過疎高齢化で細っていく現在、神祭とそこにある芸能の今日的な意義を、あらためて考えたいとおもいます。



高知県立大学  
地域教育研究センター

✉ aeru@cc.u-kochi.ac.jp FAX 088-821-7126

〒780-8515 高知市永国寺町 2-22 高知県立大学 地域教育研究センター

☎ 088-821-7125

受講お申し込み・お問合せは  
FAX、郵送、またはメールでお気軽に。



参加無料  
全8回  
連続講座



2月9日(木)から  
スタート

木曜 18:00 ~ 19:30

土曜 15:00 ~ 16:30

【講師】

佐藤恵里 特任教授 ほか  
高知県立大学 地域教育研究センター

【場所】

高知県立大学 永国寺キャンパス  
地域連携棟 B 207 講義室

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。



神祭は本来、住民の力を結集する場であり、その下に行われる芸能とともに、地域社会の今を踏まえ、より良き明日を招来しようとする身体の行動でした。

本講座では、祭り・芸能研究の観点から、神祭と芸能の存立意義を歴史的に追求してみたいと思います。土佐に伝承されてきた芸能のうち、俄・踊り・神楽を中心に日本の芸能史にそれらの足跡を照らし、担い手、演目、芸態などさまざまな角度から、地域文化としての位相を質してみたい。こうして、伝えられ・伝えてゆくことの価値を再考したいと思います。

なお、毎回、映像を使用し、また、講師に現在の担い手や研究者を迎えて、ラフにお話を伺う機会も設けます。全8回のテーマと内容はおおむね次のようです。ぜひ、ご参加ください。

木曜 18:00 ~ 19:30

2月9日(木) 18:00

第1回 神祭のチカラ、芸能のチカラ  
— 総論にかえて

祭り・芸能の位置づけ／常時・非常時の祭り  
「しきたり」という身体の伝承



土曜 15:00 ~ 16:30

2月11日(土) 15:00

第2回 佐喜浜の俄の現在

浦青年会会長 上田庄吾さん、OB 高田隼人さんを迎えて  
俄のつらさ、おもしろさ  
伝えていくということ



2月16日(木) 18:00

第3回 俄の芸能史

各地の俄から  
笑いの芸脈  
「にわか」の意味



2月18日(土) 15:00

第4回 踊りと踊り歌

歌謡研究の井出幸男先生(高知大学名誉教授)を迎えて  
踊り、踊り歌はどのように見られてきたか  
夏目漱石「坊ちゃん」と鹿持雅澄「巷謡編」の間

3月2日(木) 18:00

第5回 舞と踊りの場

舞台と路上／神坐の「山」  
「山」の発想

3月4日(土) 15:00

第6回 池川神楽と名野川神楽と

本学大学院修了・神楽研究の堅田泰宏さんと吉岡國弘さんを迎えて／神楽の構成から／神楽は祭り？

3月9日(木) 18:00

第7回 非常時の祭り

近世尾張「お鍛祭り」をめぐる痛切な祝祭／脅威としての祭り



3月11日(土) 15:00

第8回 伝統としての身体 —まとめにかえて

3.11 被災地の祭り／変身の時空  
型と型破りと

本講座は全8回連続講座です。

当日参加も可能ですが、席数が限られておりますので、なるべく事前にお申し込みください。1回ごとのお申し込みも可能です。その場合は講座の1週間前までにお申し込みください。

